先端の創薬を通じて
人々の健康と明日の医療に貢献する



あすか製薬株式会社

第91期報告書

2010年4月1日～2011年3月31日

証券コード 4514

株主の皆様へ

株主の皆様には平素より格別のご高配を賜り、厚くお礼申しあげます。本年3月の東日本大震災により被災されました皆様には謹んでお見舞い申しあげますとともに、一日も早い復興を心からお祈り申しあげます。

第91期（2010年4月1日から2011年3月31日まで）の事業概況をご報告するにあたり、ご挨拶申しあげます。

今回の震災では、株主の皆様に大変なご心配をおかけいたしました。幸いにも当社グループにおきましては、従業員の人命に関わる被害はありませんでしたが、いわき工場の被災状況は甚大であり、営業面でも影響を受けました。そのような状況のなか、全社を挙げて復旧に取り組み、現在ではほぼ通常の体制に戻っております。今後とも、震災による様々な影響につき管理を徹底し、監視に努めてまいります。

一方、国内医薬品市場に眼を移しますと、医療費・薬剤費抑制策の基調が継続し、前期に引き続き厳しい状況で推移しています。当社はこのような情勢に対処するため、2010年4月から2013年3月末までの中期経営計画「ASKA PLAN 2012」を策定し、領域を絞った新製品開発に経営資源を集中し、強い競争力のある新薬開発型企業を目指しております。「先端の創薬を通じて、人々の健康と明日の医療に貢献する」ことを経営理念とし、法令遵守、倫理的な経営のもと、「社会に貢献し信頼される会社」として発展していきたいと考えております。

株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、宜しくお願い申しあげます。

2011年6月



代表取締役社長

山口　隆

目　次

株主の皆様へ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
営業の概況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
連結財務諸表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
財務ハイライト（連結）・・・・・・・・・・・・・・・ 5
主要製品・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
トピックス・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
会社概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
株式の概況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
株主メモ

当連結会計年度におけるわが国経済は、新興国向け輸出の増加や経済対策による企業収益の回復傾向を背景に、設備投資、個人消費、雇用・所得環境など持ち直しの動きがみられたものの、為替円高や資源価格の高騰さらに3月11日に発生した東日本大震災の影響などにより、先行き不透明な状況にあります。

医薬品業界におきましては、昨年4月に長期収載医薬品の特例引き下げを含む薬価改定が実施され、後発医療用医薬品の使用促進政策が推し進められるなど医療費削減の基調は変わらず、引き続き厳しい状況で推移いたしました。

このような状況のもと当社グループは、当期を初年度とする新中期経営計画「ASKA PLAN 2012」の方針に基づき、医薬品事業を中心に適正な医薬情報活動に取り組み売上げの確保に努めました。その結果、薬価改定や主力製品の競争激化の影響はありましたが、ワイス株式会社（現ファイザー株式会社）からの承継品および同社より販売権を獲得した医薬品が、通期に亘り売上計上されたことに加え、新製品として胃蠕動運動抑制剤（内視鏡検査前処置薬）「ミンクリア」および後発医療用医薬品（7品目）を上市、ならびにライセンス契約締結時一時金の収入等もあり、売上高は458億4千9百万円（前連結会計年度比28.1%増）となりました。利益面では、売上構成の変化による売上原価率の増加等の影響はありましたが、売上高の増加に加え、研究開発費等経費の減少により、営業利益34億9千6百万円（前連結会計年度は4億1千9百万円）、経常利益36億6千1百万円（前連結会計年度は6億5千4百万円）とそれぞれ増益となりました。一方、特別損失として46億6千5百万円（東日本大震災により被災したいわき工場たな卸資産の廃棄損および生産設備の復旧費用等26億2千1百万円、希望退職者募集に伴い発生した退職加算金等の費用11億6千5百万円ならびに投資有価証券評価損8億6千1百万円など）を計上（前連結会計年度は2億1千2百万円）したことにより、当期純損失7億9千万円（前連結会計年度は当期純利益9千3百万円）となりました。

各分野における売上状況は、医薬品分野では高脂血症治療剤「リピディル」、甲状腺ホルモン剤「チラーヂン」、前立腺肥大症・癌治療剤「プロスタール」、消化性潰瘍・胃炎治療剤「アルタット」、経口避妊剤「アンジュ」や更年期障害治療剤「メノエイドコンビパッチ」等の産婦人科製品、および後発医療用医薬品の前立腺癌治療剤「ビカルタミド」、高血圧治療剤「アムロジピン」、昨年11月に上市いたしましたプロトンポンプ阻害剤「ラベプラゾール」ならびにコ・プロモーション製品を中心に販売努力をいたしました結果、売上高は423億3千3百万円（前連結会計年度比23.8%増）となりました。

動物用医薬品分野では、主力品の繁殖器官用製剤「セロトロピン」「レジプロン」、豚・鶏用飼料添加剤「アイブロシン」の他、昨年4月1日に協和発酵バイオ株式会社より畜水産領域およびコンパニオンアニマル領域に係る国内販売事業を承継したことにより、飼料用アミノ酸「リジン」「L－アルギニン」ならびに飼料用酵素「フィターゼ」等が加わりました結果、売上高は31億8千9百万円（前連結会計年度比152.9%増）となりました。

そのほか、検査、医療機器、食品等の各分野におきましては、それぞれ市況の厳しさが続くなかで鋭意販売努力をいたしました結果、売上高は3億2千6百万円（前連結会計年度比0.3%増）となりました。

生産面におきましては、一層の生産の効率化に取り組み、安定供給、高品質の確保を目指しながら計画に則した生産を順調に達成してまいりました。しかしながら、3月11日に発生した東日本大震災によりいわき工場の製造設備の一部および立体倉庫が損傷し、製品供給に一部支障を来しましたが、製造委託、海外製品の緊急輸入、および工場の操業再開等の方策を講じ、供給量確保に努めてまいりました。また、同時に復旧に向けて全力で取り組み、製品の生産・出荷を開始いたしました。今後も、全ての製品につき早期に生産体制を整えられるよう最善を尽くしてまいります。また、福島第一原子力発電所の事故による影響につきましては、今後も管理を徹底し、監視に努めてまいります。

研究開発面におきましては、本年1月21日付で消化性潰瘍・胃炎治療剤「アルタット」の小児の用法・用量の追加に関する承認を取得いたしました。酸関連疾患治療薬であるH_2受容体拮抗剤やプロトンポンプインヒビター（PPI）において、小児での適応および用法・用量の承認は本剤が日本初となります。また、高脂血症治療剤「リピディル」の新剤形製剤につき

ましては、本年3月30日付で製造販売承認を取得し、本年秋頃の発売を予定しております。次期新製品につきましては、独創性の高い医薬品の開発に注力するとともに、パイプラインの充実を目的とした業務提携にも積極的に取り組んでおります。AKP−004（アルタット細粒20%）は、本年1月27日付で製造販売承認申請を行っております。BNP7787（抗がん剤補助療法剤）は、追加フェーズⅢ試験のための検討をしております。GPD−1116（慢性閉塞性肺疾患治療剤）は欧州におけるフェーズⅡ試験、AKP−001（炎症性腸疾患治療剤）は欧州におけるフェーズⅠ試験、BNP1350（抗がん剤）は国内におけるフェーズⅠ試験がいずれも終了いたしました。業務提携におきましては、昨年4月にアルファ・ワッサーマン社（本社：イタリア）と非吸収性抗生物質「リファキシミン」の日本における開発権および販売権に関する契約を締結いたしました。当社が日本製薬株式会社と販売提携の契約を締結しておりますNPO−11（胃蠕動運動抑制剤：商品名「ミンクリア」）は、日本製薬株式会社が昨年10月27日付で製造販売承認を取得し、本年1月11日に発売を開始いたしました。当社が株式会社そーせいから日本における独占的販売権を取得しておりますSOH−075（緊急避妊剤：商品名「ノルレボ」）は、株式会社そーせいが本年2月23日付で製造販売承認を取得し、5月24日に発売を開始いたしました。また、AKP−002（排尿障害治療剤）は、昨年10月19日付でアステラス製薬株式会社と全世界での開発、製造および販売に関する独占的なライセンス契約を締結いたしました。

また、あすかActavis製薬株式会社につきましては、昨年5月より開業し、後発医療用医薬品事業の拡大を目指し活動中であります。

当連結会計年度における設備投資額は10億1千5百万円で、その内訳は主として生産設備の増強等に係るものであります。

当連結会計年度において、震災による復旧等に備えて、金融機関より30億1千万円の借り入れを行いました。

今後の医薬品業界は、昨年4月の新薬価制度により導入された長期収載品の薬価追加引き下げおよび後発品の使用促進をはじめとする医療費抑制策の影響が大きく、引き続き厳しい経営環境が予測されます。

当社は企業価値の最大化を図るため、組織・人事・制度面での改革を進めてまいりました。今後も改革を緩めず効率的経営に努めてまいります。また、あすかActavis製薬株式会社の医薬品事業育成に全力を挙げて取り組みます。

生産面では、本年3月の東日本大震災で被災したいわき工場の製造設備等を復旧させ、震災前レベルの生産体制を整えることを喫緊の課題として取り組んでおります。さらに今後は、リスク管理の徹底により、製品安定供給の体制を構築してまいります。また、生産管理システムを活用し、高品質な製品の安定供給に取り組んでまいります。

研究開発面では、臨床試験実施中の新薬の確実な開発の推進を目指します。また、導出入活動および事業提携戦略を積極的に展開してまいります。

販売面では、医薬品分野につきましては、MR支援システム構築を通じて医薬営業体制の強化と質の高い医薬情報活動、新上市品および販売提携等により売上高の増加を目指します。また動物用医薬品分野につきましては、昨年4月1日より協和発酵バイオ株式会社の畜水産領域およびコンパニオンアニマル領域に係る国内販売事業を承継しました。事業規模の拡大に対応すべくアニマルヘルス事業本部を新設し、売上高の増加に取り組んでおりますが、今後承継した事業との融合をさらに進め、繁殖と栄養の組み合わせによる相乗効果を最大限発揮できるよう努めてまいります。

費用面では、パイプラインの充実やステージアップにより研究開発投資の増加が予想されますが、効率的な使用や導出等による費用の圧縮に努め、低コスト経営、体質強化を目指してまいります。

内部統制に関しては、業務の有効性および効率性の向上、財務報告の信頼性の確保、業務活動に関わる法令の遵守、会社資産の保全・蓄積に向け、内部統制システムの強化・定着に努めてまいります。

また、株主の皆様はもとより、広く社会とのコミュニケーションを図り、企業情報を積極的かつ公正に開示するようIR活動を推進してまいる所存であります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申しあげます。

連結貸借対照表（要旨）

（単位：百万円）

科目	前連結会計年度 2010年3月31日現在	当連結会計年度 2011年3月31日現在
資産の部		
流動資産	**25,398**	**31,526**
現金及び預金	4,094	5,195
受取手形及び売掛金	7,733	9,296
有価証券	5,340	7,188
その他	8,230	9,845
固定資産	**27,774**	**26,005**
有形固定資産	**14,367**	**13,390**
無形固定資産	**3,280**	**2,643**
投資その他の資産	**10,127**	**9,971**
投資有価証券	4,752	4,473
その他	5,374	5,497
繰延資産	**66**	**63**
資産合計	**53,239**	**57,595**
負債の部		
流動負債	**9,136**	**16,736**
固定負債	**10,903**	**8,656**
負債合計	**20,040**	**25,392**
純資産の部		
株主資本	**33,581**	**32,394**
資本金	1,197	1,197
資本剰余金	845	845
利益剰余金	33,844	32,660
自己株式	△ 2,306	△ 2,308
その他の包括利益累計額	**△ 448**	**△ 191**
その他有価証券評価差額金	△ 439	△ 185
繰延ヘッジ損益	△ 8	△ 6
少数株主持分	**65**	**–**
純資産合計	**33,198**	**32,202**
負債純資産合計	**53,239**	**57,595**

連結損益計算書（要旨）

（単位：百万円）

科目	前連結会計年度 2009年4月 1日から 2010年3月31日まで	当連結会計年度 2010年4月 1日から 2011年3月31日まで
売上高	**35,784**	**45,849**
売上原価	16,646	24,564
売上総利益	**19,137**	**21,284**
返品調整引当金繰入額	△ 4	1
差引売上総利益	**19,141**	**21,283**
販売費及び一般管理費	18,722	17,787
営業利益	**419**	**3,496**
営業外収益	341	396
営業外費用	106	230
経常利益	**654**	**3,661**
特別損失	212	4,665
税金等調整前当期純利益	**441**	**△ 1,003**
法人税等	372	△ 148
少数株主損益調整前当期純利益	**68**	**△ 855**
少数株主利益	△ 24	△ 65
当期純利益	**93**	**△ 790**

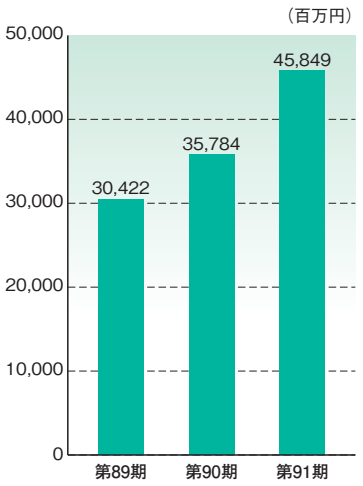
連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）

（単位：百万円）

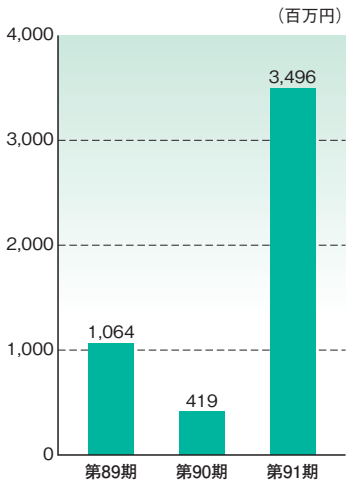
科目	前連結会計年度 2009年4月 1日から 2010年3月31日まで	当連結会計年度 2010年4月 1日から 2011年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	**2,665**	**3,558**
投資活動によるキャッシュ・フロー	**△ 4,817**	**△ 3,575**
財務活動によるキャッシュ・フロー	**1,811**	**1,673**
現金及び現金同等物に係る換算差額	**△ 0**	**0**
現金及び現金同等物の増減額	**△ 339**	**1,656**
現金及び現金同等物の期首残高	**9,774**	**9,434**
現金及び現金同等物の期末残高	**9,434**	**11,090**

財務ハイライト（連結）

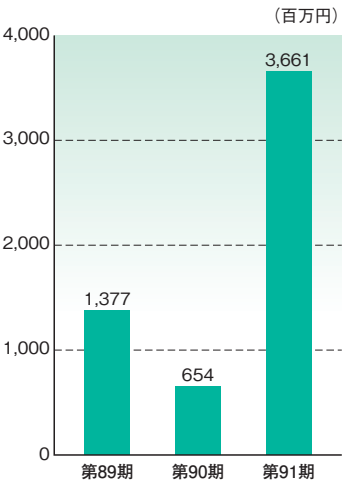
売上高



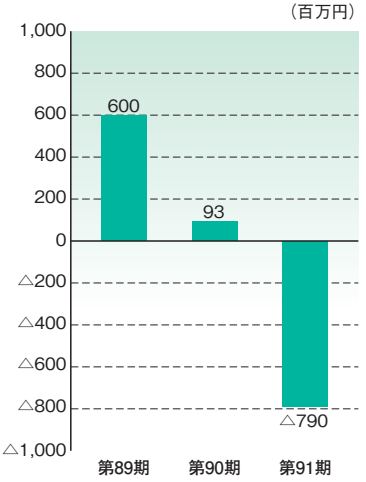
営業利益



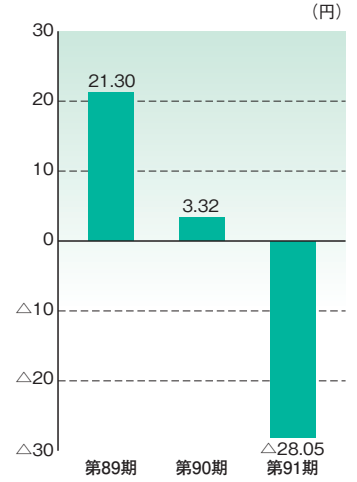
経常利益



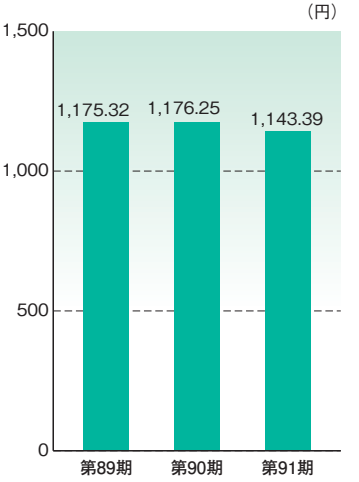
当期純利益



1株当たり当期純利益



1株当たり純資産額



（注）当期末の自己資本比率は55.9％です。

●医療用医薬品



高脂血症治療剤
リピディルカプセル67・100



甲状腺ホルモン剤
チラーヂンS錠25・50・100



前立腺肥大症・癌治療剤
プロスタール錠25
徐放性前立腺肥大症治療剤
プロスタールL錠50mg



消化性潰瘍･胃炎治療剤
アルタットカプセル37.5・75



緊急避妊剤
ノルレボ錠0.75mg



経口避妊剤
アンジュ21錠・28錠



更年期障害治療剤
メノエイドコンビパッチ



前立腺癌治療剤
ビカルタミド錠80mg「あすか」



高血圧症･狭心症治療薬 持続性Ca拮抗薬
アムロジピンOD錠2.5mg、5mg「あすか」

●動物用医薬品および飼料添加物



注射用血清性性腺刺激ホルモン
動物用セロトロピン



犬前立腺肥大症治療剤
ウロエース錠



代謝改善解毒剤
動物用チオラ注射液



飼料添加物
L-バリン・L-アルギニン

◆ 東日本大震災への対応



2011年3月11日の東日本大震災において被災されました皆様に、心よりお見舞い申しあげます。当社グループにおきましては、幸いにも従業員の人命に関わる被害はなく、現在ではほぼ通常の体制に戻っております。

当社では、山口社長を本部長とした「災害対策本部」を立ち上げ、災害発生直後より全社を挙げて対処してまいりました。この地震による被災者の救済および被災地の復興に役立てていただくため、日本赤十字社を通じて災害義援金3千万円を寄付したほか、従業員の協力により、当社いわき工場をはじめ被災者の支援のために、水、簡易トイレ、紙オムツ、生理用品などを緊急救援物資として搬送いたしました。

被災地域の一日も早い復興を心よりお祈り申しあげます。

◆ 創立90周年記念事業





当社は、2010年6月に創立90周年（創立1920年）を迎えました。これを記念し、全従業員による社会貢献活動を10月から実施しています。

◆車椅子寄贈

東京都社会福祉協議会の仲介により、都内16福祉施設に車椅子100台を寄贈しました。

◆介助犬育成募金

社会福祉法人日本介助犬協会に、会社からの寄付金と従業員からの募金を合わせて、総額500万円を寄付しました。

◆AED講習会

製薬企業の社員として緊急時に対応できるように、全従業員を対象とした自動体外式除細動器（AED）講習会を実施しました。

◆記念植樹

本社に「紅梅」、川崎事業所に「紅白梅」、西東京事業所に「ハクモクレン」、いわき工場に「ユズリハ」をそれぞれ植樹しました。

◆ 第4回「生殖と女性医学」講演会開催



2011年2月5日、グランパシフィックLE DAIBA（東京都港区）において、「生殖と女性医学」講演会を開催しました。本講演会は、慶應義塾大学 吉村泰典先生を代表世話人とする当社主催の講演会で、産婦人科の先生方の研究・診療のお役にたてる最新の情報提供と全国の先生方の活発な意見交換の場として2008年より開催しております。

4回目を迎える今回は、全国から130名を越える先生方にご出席いただき、「OCからHRTへ*1」「肥満と生殖機能」という2つのテーマで、基礎から臨床までの幅広い講演内容であったため、先生方から「興味深い内容で、大変勉強となった」とのご意見を多くいただきました。

今後も、あすか製薬の産婦人科製剤の認知、採用のさらなる拡大を目指して当講演会を発展させていきたいと考えております。

（*1 OC：経口避妊剤、HRT：ホルモン補充療法）

◆「アルタットカプセル」小児の用法・用量の追加承認取得

2011年1月21日、当社はH_2受容体拮抗剤「アルタットカプセル37.5、同75」（一般名：ロキサチジン酢酸エステル塩酸塩）の小児の用法・用量の追加に関する承認を取得しました。

酸関連疾患治療薬であるH_2受容体拮抗剤やプロトンポンプインヒビター（PPI）において、小児での適応及び用法・用量の承認は本剤が日本初となります。

本剤は、あすか製薬オリジナルのH_2受容体拮抗剤であり、1986年の発売以来、酸関連疾患患者の治療に使用され、高い有効性と安全性が確認されております。

近年、適切な小児薬物療法のための環境整備が厚生労働省の小児薬物療法検討会議等で進められ、同会議において検討する薬物の候補（案）として、日本小児栄養消化器肝臓学会からH_2受容体拮抗剤及びPPIの要望が出されております。本要望を鑑み、当社は、胃炎・胃潰瘍等の疾患を抱える小児患者のQOL向上のため、小児科医療の要望に応えるべく、本剤の小児に対する用法・用量の設定について開発を進め、有効性と安全性を確認し、2009年10月26日に承認申請しておりました。

当社は消化器領域を重点領域のひとつとしており、2011年1月11日、胃蠕動運動抑制剤「ミンクリア内用散布液0.8%」の販売を開始しました。この度、「アルタットカプセル」に新たな適応を加え、当該領域において小児も含めての医療ニーズに応えてまいります。

◆ 緊急避妊剤「ノルレボ錠0.75㎎」新発売



2011年5月24日、日本初の緊急避妊剤「ノルレボ錠0.75㎎」を発売いたしました。本剤は望まない妊娠が危惧された場合、性交後72時間以内に2錠を1回服用することにより避妊効果を発揮します。本剤の有効成分であるレボノルゲストレル（合成黄体ホルモン）は、WHO（世界保健機関）による緊急避妊のエッセンシャルドラッグに指定されています。

1999年にフランスで発売されて以来、これまで世界約50ヶ国で承認されており、日本では株式会社そーせいがLaboratoire HRA Pharma（フランス）より導入し、開発を行いました。

産婦人科領域は、当社の取り組むべき重要な領域と考えております。これからも更なるスペシャリティー・ファーマとして関連製品のラインナップの充実に努め、女性の健やかな明日のためにより一層貢献してまいります。

◆ 新製品発売



胃蠕動運動抑制剤
ミンクリア内用散布液0.8%



スルホニルウレア系経口血糖降下剤
グリメピリド錠1mg、3mg「AA」



潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤
メサラジン錠500mg「AKP」



プロトンポンプ阻害剤
ラベプラゾールNa錠10mg、20mg「AA」



前立腺肥大症の排尿障害改善剤
リストリームOD錠0.1mg、0.2mg



動物用医薬品
非ステロイド系　解熱・鎮痛・抗炎症剤
フルニキシン注10%「フジタ」

会社概要（2011年6月29日現在）

会社の概要

社名	あすか製薬株式会社
設立	1929年6月28日 （創立1920年6月16日）
資本金	11億9,790万円
主な事業内容	医薬品、動物用医薬品、医薬部外品、食品および医療機器等の製造・販売ならびに輸出入
主な事業所	
本社	東京都港区芝浦二丁目5番1号
事業所	川崎事業所（神奈川県川崎市） 西東京事業所（東京都羽村市）
工場	いわき工場（福島県いわき市）
支店	札幌支店、東北支店、東京支店、千葉・埼玉支店、横浜支店、北関東支店、甲信越支店、名古屋支店、京都支店、大阪支店、中国・四国支店、福岡支店
従業員数	875名（3月31日現在） （子会社への出向者41名は含めておりません）

子会社

会社名	資本金	当社の議決権比率	主要な事業内容
	百万円	%	
㈱あすか製薬メディカル	200	100	医薬品原材料等の販売業務 臨床検査業務、 健康食品の販売業務 清掃・警備等の受託業務、 保険代理店
あすかActavis製薬㈱	200	55	医薬品の開発、製造、販売および輸出入

役員

役員	代表取締役社長	山口　隆
	代表取締役専務取締役	山口雅夫
	専務取締役	金澤　一
	常務取締役	大竹　充
	取締役常務執行役員	堀内　敏
	取締役常務執行役員	内藤　朗
	取締役常務執行役員	横山義廣
	取締役常務執行役員	丸尾篤嗣
	取締役	上田栄治
	取締役	吉村恭典
	常勤監査役	鈴木　肇
	常勤監査役	小泉直之
	監査役	武田裕二
	監査役	増田由明
執行役員	常務執行役員（生産本部長）	角張信隆
	執行役員（アニマルヘルス事業本部長）	應矢誠司
	執行役員（西東京事業所長兼創薬研究センター長）	青塚知士
	執行役員（特命事項担当）	秋山　明
	執行役員（医薬事業本部長）	村上　誠
	執行役員（信頼性保証担当）	川原真幸

株式の状況

■発行済株式の総数　30,563,199株

■株　　主　　数　3,915名

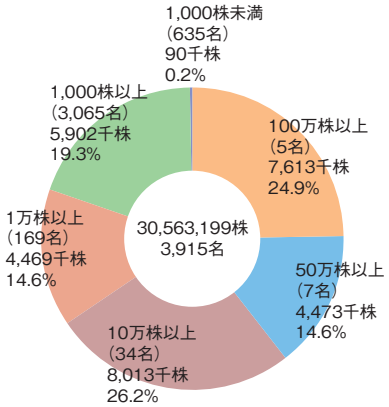
大株主の状況（上位10位）

株主名	所有株数（千株）	持株比率（%）
武田薬品工業株式会社	2,204	7.7
株式会社三菱東京UFJ銀行	1,163	4.0
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	1,084	3.8
山口　隆	1,060	3.7
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	966	3.3
長瀬産業株式会社	850	2.9
日本生命保険相互会社	579	2.0
あすか製薬従業員持株会	547	1.9
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	530	1.8
トーア再保険株式会社	500	1.7
ビービーエイチ ボストン ハートランド バリュー ファンド インク 620018	500	1.7

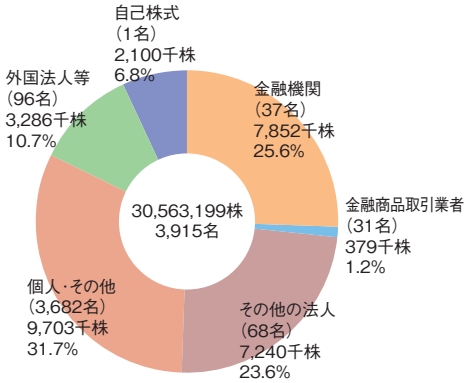
（注）1. 千株未満は切り捨てて表示しております。
2. 持株比率は、小数第2位以下を切り捨てて表示しております。
3. 持株比率は、自己株式（2,100,285株）を控除して計算しております。

株式の分布

■所有株数別



■所有者別



●株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
公告掲載紙	日本経済新聞

株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第一部

●株式に関するお手続きについて

お手続き、ご照会等の内容	証券会社等に口座をお持ちの場合	特別口座*の場合
・単元未満株式の買取・買増請求 ・届出住所・姓名などのご変更 ・配当金の受領方法・振込先のご変更	お取引の証券会社等にお問い合わせください。	三菱UFJ信託銀行にお問い合わせください。
・郵送物等の発送と返戻に関するご照会 ・支払期間経過後の配当金に関するご照会 ・株式事務に関する一般的なお問い合わせ ・特別口座に関するお問い合わせ	三菱UFJ信託銀行株式会社　証券代行部 〒137-8081　東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL. 0120（232）711（通話料無料） http：//www.tr.mufg.jp/daikou/	

特別口座*　株券電子化前に証券保管振替機構（ほふり）に預託していなかった株券の株主様の権利を保全するために、三菱UFJ信託銀行に開設した口座です。

株主の皆様の声をお聞かせください

下記ＵＲＬにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、
アンケートを実施いたします。
お手数ではございますが、
アンケートへのご協力をお願いいたします。

●アンケート実施期間は､本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

http://www.e-kabunushi.com
アクセスコード 4514

いいかぶ　検索

Yahoo!、MSN、exciteのサイト内にある検索窓に、いいかぶと4文字入れて検索してください。

空メールによりURL自動返信
kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。（タイトル、本文は無記入）
アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

携帯電話からもアクセスできます
QRコード読み取り機能のついた携帯電話をお使いの方は、右のQRコードからもアクセスできます。

※本アンケートは､株式会社エーツーメディアの提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。（株式会社エーツーメディアについての詳細　http://www.a2media.co.jp）
※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただき､事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ「e-株主リサーチ事務局」TEL. 03(5777)3900（平日 10:00～17:30）MAIL:info@e-kabunushi.com

あすか製薬株式会社

本　社　〒108-8532　東京都港区芝浦二丁目5番1号
TEL.03（5484）8361㈹　FAX.03（5484）8351
http://www.aska-pharma.co.jp/

VEGETABLE OIL INK